令和４年度　自己評価・学校関係者評価報告書

令和　5　年　2 月 14 日
少友幼稚園　園長　吉野悦子

1.　本園の教育目標
キリスト教フレンド派の精神に基づいて教師と園児とその保護者との間の愛と信頼の中で「神と人に対する感謝の心を持つ」「進んで社会に奉仕する人」「自主的に判断し強い意志と責任感を有する人」「個人の持てる能力を十分に発揮できる人」「協調性のある豊かな人格を有する人」

2.本年度重点的に取り組む目標・計画
子どもに寄り添う保育を心がける

3.評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	横割りクラス	A	同年齢の遊びを深め、子どもに合わせた保育計画にすることができた。
2	特別支援対応	A	ひとりひとりの成長を見守ることができた。
3	園庭計画	B	何社か見積もりをとり全体デザインを決定するように努めた。

評価（A 十分に成果があった　B 成果があった　C 少し成果があった　D 成果がなかった）

4.総合的な評価結果.

評　価	理　由
A	横割りクラスの充実によって子どもたちが落ち着いて過ごすことができ、日常の遊びの中から表現活動につながったことは成果であると判断した。園庭計画も砂場を検討することができ、次の課題も明確になった。

5.今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	園庭計画	教職員が主体となって全体のイメージをつくる。
2	教職員の環境	コミュニケーションがとりやすいようにミーティングや研修を積極的に行う。
3	園外自然観察	地域の自然に触れる。（西の谷ホタル観察など）

6.学校関係者評価委員会の評価

今年度も吉野園長をはじめ教職員の先生方が子どもに寄り添う保育を心がけてくださり子どもたちが安心して登園することができました。

特に今年度は横割りクラスの充実により、じっくりと活動に取り組むことができ同年齢の遊びを深めていただけました。

今後は、広くなった園庭が子どもたちにとってより望ましい環境になることを願います。

また、コロナ禍によって失われつつあるコミュニケーションの機会や方法を再度見直し、教職員や保護者が必要な場面で適宜話し合い協力しあえることを期待します。

少友学園関係者評価委員　永田明子

本年度、園が取り組まれた目標・計画、またその取り組み状況と自己評価についてご報告を受け、子供たちのために先生方が日々尽力されている様子がよくわかりました。
今後ももうしばらく、コロナ禍という状況がついて回りますが、園としてさらに工夫され、園と保護者のコミュニケーションを深めていきたいというお話も伺い、期待しております。
また、園庭の計画も楽しみにしております。

保育という尊い仕事に向き合い、重責を果たされている先生方の姿に、深く、感謝の気持ちをあらたにいたしました。

少友学園関係者評価委員　　川崎賢一